

JOYAMA NEWS

University of Teacher Education Fukuoka
Campus Magazine

vol. **47**

2020 Spring

Joyama 通信
福岡教育大学広報誌

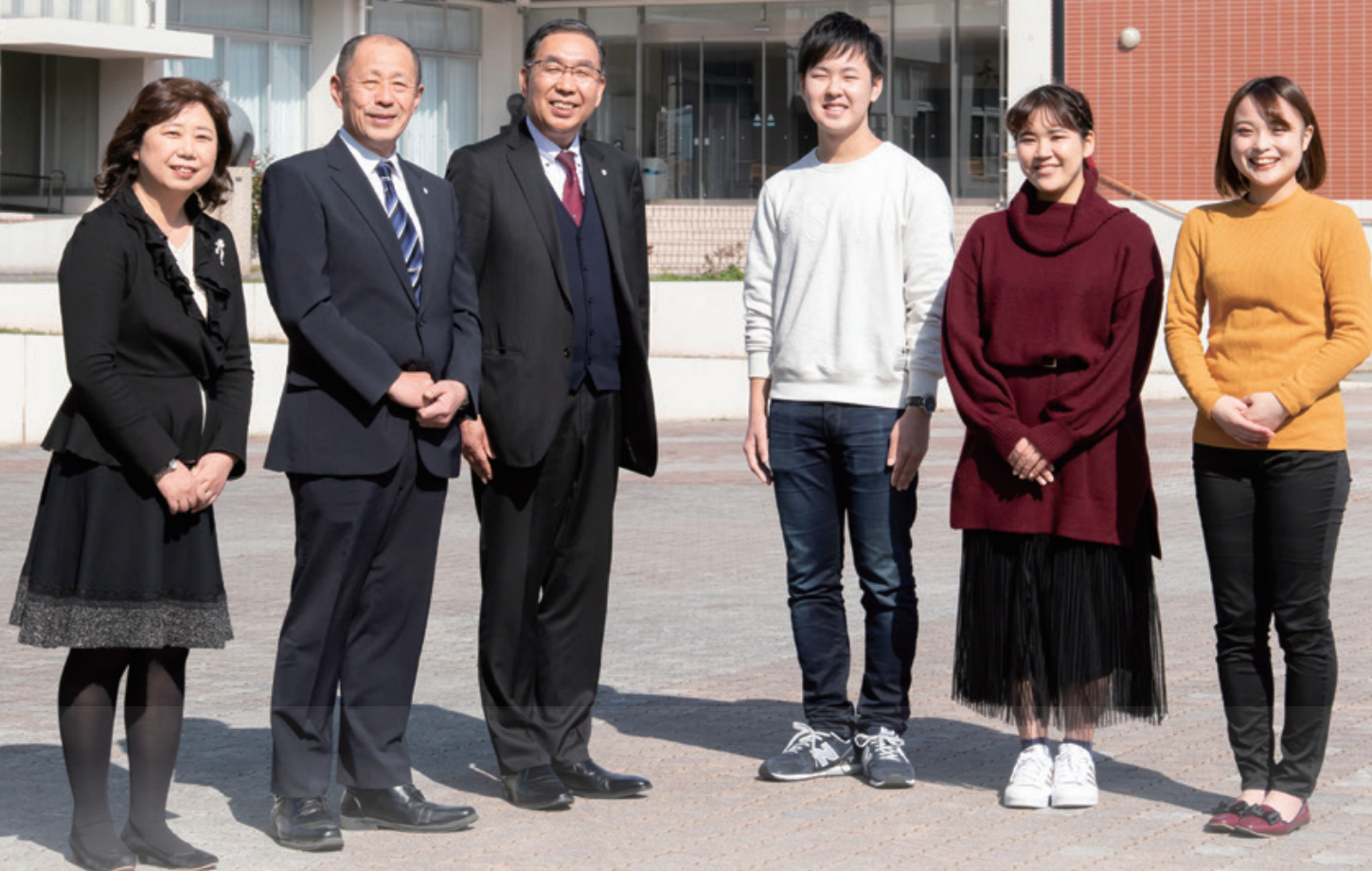
特集1

教員採用試験合格状況

福教大OB・OG先生×現役学生

特集2

不変・不屈の教師力



国立大学法人

福岡教育大学

特集1

教員 採用試験 合格状況



通信 Joyama News

福岡教育大学広報誌
University of Teacher Education Fukuoka
Campus Magazine

CONTENTS

vol.

47

02 特集1

教員採用試験合格状況

10 特集2

福教大OB・OG先生×現役学生
不変・不屈の教師力

14 教員紹介

&学生から見た先生の魅力について

15 福教大NEWS

20 サークル紹介

SKY
クイズ研究会

21 第24回 福教大卒OB&OG紹介

熊本県立宇土高等学校
研究開発部長 梶尾 滝宏さん

22 TOPICS

学学生及び教職員は
平常展を無料で観覧できます
～九州国立博物館～

表紙モデルの福教大生

福岡教育大学基金のご案内

23 キャンパスからの便り



本年度も、本当に多くの学生の皆さんが「教員になるという夢」を実現しました。しかし、教員採用試験合格は、終点ではありません。むしろ、教師として、社会人としてキャリア形成をしていく上でのスタート地点といえます。大学時代に、これから、「どんな人生を送っていくのか」、「どんな教師になりたいのか」、「自分にとっての幸せとは何か」、そういったことを考えることにも価値があるのではないのでしょうか。

キャリア支援センターでは、社会に巣立っていく前に、学生の皆さんには多くの先輩に出会ってほしいと考えています。たとえば、親身になって学生の皆さんをサポートして下さる「就職支援アドバイザー」との出会い。教職経験のある先生方の話は、「どんな教師になりたいのか」考える上で示唆に富んだものだと思います。また、「キャリアナビ」で出会う、合格体験を語ってくれる先輩。各自治体の教員採用試験、そして一般企業の入社試験・公務員採用試験をみごとに勝ち抜いた先輩方の話も参考になると思います。誰も順風満帆ではありません。「葛藤を乗り越えて、いまがある」、そんな話に自分を重ねることが出来ます。そこに学びがあると思います。

キャリア支援センターでは、学生の皆さん一人一人が自分の夢を実現できるように今後もサポートしていきます。学びの輪は確実に広がっています。是非、一緒に学びましょう。

キャリア支援センター長 生田 淳一

教員採用試験合格状況

平成31（令和元）年度実施公立学校教員採用試験の合格者は大幅に増加し、全体的な合格率も大幅に上昇しました。その要因としては、平成28年度学部改組（全学で生涯課程を廃止し、教員養成課程に特化）後の4年生が受験する初年度であり、入学時から4年次までの高い教員志望度を反映して、大幅に受験者が増加したことが考えられます。そのことで、地元の福岡県では校種を問わず大変多くの最終合格者を出すことができ、さらに高倍率の沖縄県や三重県でも最終合格者を出すことができました。（表1、表2）

〔表1〕平成29～31（令和元）年度実施公立学校教員採用試験の校種別合格状況（令和2年1月31日現在）

実施年度	小学校				中学校				高等学校				特別支援学校				合 計				
	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	合格実人数
H31(R元)	369	309	272	73.7	131	94	58	44.3	76	41	15	19.7	69	62	43	62.3	645	506	388	60.2	380
H30	292	231	183	62.7	184	113	54	29.3	102	46	22	21.6	63	50	36	57.1	641	440	295	46.0	284
H29	483	391	286	59.2	310	169	105	33.9	96	22	10	10.4	68	55	33	48.5	957	637	434	45.4	300

（注1）出願者数：併願を含む （注2）最終合格者数：複数合格を含む

〔表2〕自治体別公立学校教員採用試験合格者 内訳（令和2年1月31日現在）

自治体 実施年度	九州・沖縄												小計 (九州・沖縄)
	福岡県	福岡市	北九州市	佐賀県	長崎県	熊本県	熊本市	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県		
H31(R元)	197	37	32	15	15	14	3	10	8	3	2		336
H30	147	33	38	9	6	4	0	6	3	3	0		249
H29	182	143	20	6	3	4	2	1	7	1	1		370

	山口県	広島県・市	岡山県・市	鳥取県	島根県	愛媛県	香川県	高知県	兵庫県	三重県	他	合計(全国)
H31(R元)	13	13	3	2	3	3	1	2	1	1	10	388
H30	8	12	1	0	3	1	0	1	1	0	19	295
H29	11	10	3	0	0	1	4	0	1	2	32	434

※延べ人数

教員採用試験特別講座

キャリア支援センターは、学生のやる気を全力でサポートする集団です。学生が「先生になりたい」と心が震えた瞬間を大切に、面接や討論で力を発揮できるよう個々人の想いや考えを大切に相談に応じます。特別講座の中では、現場で役立つ教員採用試験突破に向けての「知識・技能・態度」を育てていきます。

2年生特別講座

受験地情報を収集し、受験地・校種を決めます。英語資格を持っていると、自治体によっては一部試験免除や加点制度があります。大学推薦制度がある自治体もあるので早めの準備が合格への第一歩です。

3年生特別講座

1次試験（筆記試験）突破に向けて、知識をつけていきます。知識は1次試験突破だけではなく、2次試験の面接でも必ず役立ちます。根気よく集中して傾向を把握することが合格へのカギとなります。

4年生特別講座

3年生のうちに筆記試験の勉強は終え、4年生では2次試験対策を重点的に行います。個人面接や集団面接・討論、模擬授業では、人間力、授業力や専門性が問われるため、自分を知ることや繰り返しの練習が必要です。



4年生特別講座（集団討論の様子）

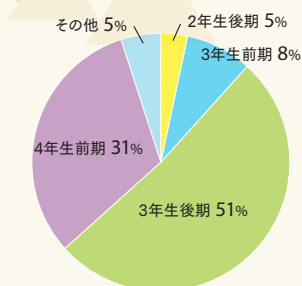
〔参考〕4年生の教員採用試験のための特別講座受講回数と教員採用試験合格率（令和元年11月1日現在）

受講回数	4年生(名)	出願者数(名)	一次合格者数(名)	一次合格率	最終合格者数(名)	最終合格率①	最終合格率②
0回	267	78	39	50.0%	22	56.4%	28.2%
1～10回	167	160	122	76.3%	91	74.6%	56.9%
11～20回	115	114	102	89.5%	86	84.3%	75.4%
21～30回	93	93	89	95.7%	79	88.8%	84.9%
31回以上	75	75	73	97.3%	69	94.5%	92.0%
	717	520	425	81.7%	347	81.6%	66.7%

※最終合格率①は、一次合格者数を分母とした場合の割合

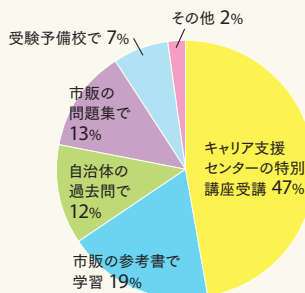
※最終合格率②は、出願者数を分母とした場合の割合

4年生特別講座のアンケートを実施しました。147名から回答があり、一部をご紹介します。結果は今後、特別講座の改善に役立てます。ご協力ありがとうございました。



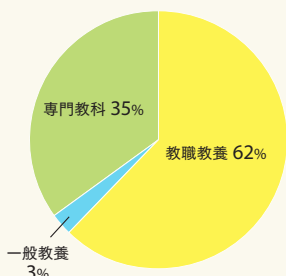
1. 筆記試験対策をはじめた時期は？

半数が3年生後期から筆記試験対策をはじめています。ちょうど教育実習も終わってモチベーションが高まる時期ですね。



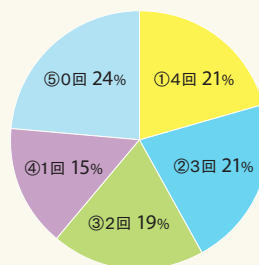
2. はじめにした取組は何ですか？

特別講座は、3年生後期から本格的にはじまります。教員採用試験対策をはじめるときかけにする学生が多いようです。また、がんばっている仲間と出会えることもよい刺激になります。



3. 筆記試験対策で力を入れたのは何ですか？

「教職教養」は、筆記試験の中では比較的点数が取りやすい分野です。さらに内容は、面接や討論で役立つ部分なので力を入れて勉強することはおすすめます。



4. 模試の受験回数は何回ですか？

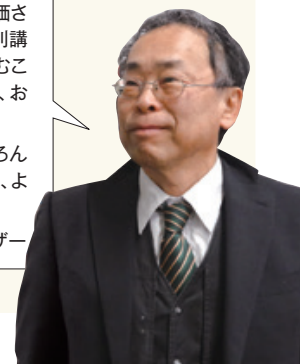
模試は、自分の弱点を知る材料になります。後援会の補助があるので、学生価格で安く受けることができます。ぜひ活用してください。

感想

- ・ 講座受講により、今何をすべきなのかを大まかに確認しながら対策を進めることができました。
- ・ 過去問分析が役に立ちました。
- ・ 面接や集団討論、模擬授業、体育実技など1人で出来ない対策を仲間とできたのは良かったです。
- ・ 受験者が少ない自治体で、情報の少なさに不安が大きかったですが、対応していただき最後まで頑張ることができました。

- ・ 教採は広大な範囲からの筆記試験、様々な角度から評価される人物試験に対応していくことが求められます。特別講座を受講することで、見通しをもって効率的に取り組むことができます。同じ目的をもって頑張る仲間の存在は、お互いを励まし勇気づけてくれます。
- ・ 教採の取組は合格するためのものであることはもちろんですが、教師になってからも必ず役に立ちます。合格し、よい教師になるために一緒に頑張りましょう。

奥田就職支援アドバイザー



「先生になりたい」

でも、ちょっと不安…

おまかせください。キャリア支援センターの就職支援アドバイザーが学生の不安を解決します！

1 授業



教員採用試験では、必ず「模擬授業」がありますよね。先輩たちの「模擬授業」は完璧で、自分にはできないかもと不安でたまりません。どうやったらそんなに上手にできるようになるんですか？



井ノ口就職支援アドバイザー

ズバリ
お答えします！

初めからできる人はいませんので、『**安心してください**』。完璧に感じた先輩の模擬授業も、特別講座や研究室の先生方のアドバイスや演習、個人や仲間たちとの練習などを経た結果です。4年生特別講座での模擬授業については、形態別〔学級活動型・教科型〕や自治体別にポイント提示や演習を実施します。また、指導案提出の自治体についても個別に対応します。教育実習やボランティア活動で知り得たことを参考に臨んでください。

2 子ども



3年生で教育実習に行きました。子どもたちはかわいいし、とても楽しかったのですが、1人とても難しい子がいました。なかなかコミュニケーションがとれなくて、今後子どもとの関係づくりをうまくやっていけるのか不安です。



大竹就職支援アドバイザー

ズバリ
お答えします！

子どもとの関係づくりの悩みや課題を解決していくには、『**経験を重ねる**』ことが重要です。経験を通して、一人一人の子どもの「伸びたい」という意欲を引き出し、子どもとの信頼関係を築いていくことが大切です。経験を通しての様々な学びは、子どものみならず、いつしか自身をも大きく成長させてくれるはずです。そのために、ボランティア活動や実習等の実践の場へ意欲的に参加することや特別講座の積極的受講を勧めます。

3 保護者



保護者対応に不安があります。子どもとのコミュニケーションは得意なのですが、大人と話すことが苦手なので保護者の方にうまく伝えることができるか心配です。



羽原就職支援アドバイザー

ズバリ
お答えします！

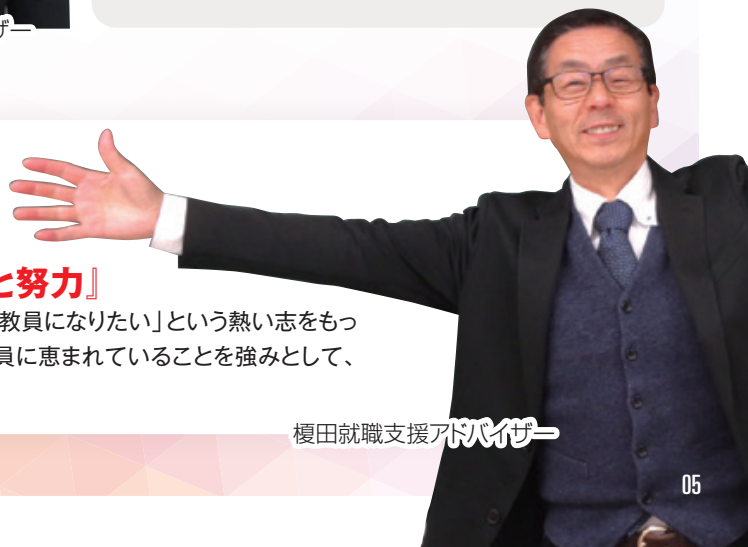
『**受容・傾聴・共感**』の姿勢が、保護者との連携をスムーズにしてくれます。連携の基本は、相手の立場に立って、よく話を聞くことです。自分だったらどのように聞いてほしいか想像してみるとわかります。誰でも批判や反論されることなく聞いてもらえると、「わかってもらえた。」という安心した気持ちになれるものです。ボランティア活動やアルバイトを通して、今のうちにコミュニケーション能力を高めてください。

「行動なくして幸せはない」という言葉があります。

「不安」を解決するためには

『**(ふ)だから、(あ)あなたの良さを発揮して、
(ん)〜と背伸びせず自分なりの時間と努力**』

を持って行動し、体験と経験を重ねることです。これからの学生生活、「教員になりたい」という熱い志をもった仲間と、資質能力の育成と向上を親身に指導支援してくださる教職員に恵まれていることを強みとして、日々活動に取り組む皆さんの姿を楽しみにしています。



榎田就職支援アドバイザー

教員採用試験合格者の声 Successful examinee's message

福教大での学びについて

課外活動について

私は4年間、陸上競技部に所属しました。4年間を通して、大きく2つのことを学びました。1つ目は、やり抜くことの大切さです。大学生は義務で行っているわけでもなく、ましてやクラブは強制されてるものではありません。時には、やめたくなることもありました。しかし、仲間や先生に支えられて4年間続けることができました。様々なことがありましたが、乗り越え、自分の好きなことを4年間続けることで、陸上をやり抜くために一生懸命に取り組むことができたという自信につながりました。2つ目は、協力することの大切さです。自分たちの競技力向上のためにはどうすれば良いか、自分自身が仲間と切磋琢磨しながら常に考え、協力してきました。大学では自分たちが主体となって練習します。だからこそ協力することが大切だと分かりました。特に、主務として、全体をまとめ、支える経験は貴重なものとなりました。これを活かして今後、同じ学校の先生方と協力していきたいです。さらに、やり抜くことや協力することを子どもたちに伝えることができる教員になります。

教育実習について

私は教育実習を通して、教師のやりがいを感じることができました。初めて授業をするときはとても緊張しました。しかし私の声掛けや手立てによって子どもたちの「わかった」「できた」を引き出すことができた時は本当に嬉しかったです。子どもたちは私が思っている以上のことができるんだと学ぶことができました。それを感じることができたのは、本気になって授業準備に取り組んだり、子どもたちに真剣に向き合ったりしたからだと思います。また、休み時間に一緒に遊んだり、朝の会で美しい歌声を聴いたり、教師にしかできない良さをたくさん感じることができました。この教育実習はたった3週間しかありませんでしたが、本気で子どもと向き合うことを通して、人として大きく成長し、教師に近づく一歩を踏み出す機会となったと思います。



教育実習班のみんなと

北九州市教員採用試験
小学校 合格

初等教育教員養成課程 4年

くろ いわ のぶ あき

黒岩 宣明さん

(福岡県立小倉高等学校出身)

教員採用試験対策について

私は、陸上とアルバイトと勉強を全て続けてきました。時間が取れない中、意識していたことがあります。それは、メリハリをつけることです。陸上の練習時間までは勉強に集中し、練習の時間になったら、しっかり練習をするように頭を切り替えるように心がけてきました。陸上の練習を頑張っているからこそ採用試験の勉強も頑張ることができました。何か1つのことのみではなく、限られた時間をどのように有効活用していくかプランニングすることが大切だと思います。



陸上春合宿の後

教員として働くことへの意気込みについて

私は小学生の頃の担任の先生に憧れて先生になりたいと思うようになりました。その夢を叶えることができました。次の夢は私が受け持つ子どもが「学校が楽しい」と思うことのできる先生になることです。私自身、小学生の頃、学校が好きでした。それも当時の先生方や友達のおかげです。子どもたちが、「学校って楽しいな」と思えるような授業や学級づくりをしていきたいと思います。そのためにも、教材研究をしっかりと行い、子どもたちに分かる授業をしていきたいと思っています。そして、大学生活で学んだことを活かして、一日一日成長していきたいと思っています。これからたくさんの子もたちと出会い、共に成長していく日々を心から楽しみにしています。



学連競技会の様子



陸上競技部4年生のみんなと

福教大での学びについて

私は、10月に教員採用試験に合格することが出来ました。私が合格することができた理由のひとつに、この福岡教育大学で学ぶ中で出会った同じ志をもつ友人たちとの出会いがあります。その友人たちというのは、中等教育教員養成課程音楽科のみんなです。16人という少ない人数なのでみんなすごく仲がよく、みんなとても頑張り屋な人ばかりで尊敬します。平日頃から夜遅くまで専門楽器の練習をしたり、教育実習の際には、みんなで協力をし合って授業づくりをしたりと気持ちを高め合え、優しく思いやりが溢れている自慢の仲間たちです。そのように1.2.3年と大学で学んでいき、いざ教員採用試験に臨む際にその絆を発揮し、さらに深めることができたと思います。みんな福岡県を受けるわけではなくもちろん様々な自治体を受けます。だからといって、バラバラに頑張るのではなく、みんなで支え合って頑張りました。特に採用試験の時期は、早朝から大学に集まり、教室が閉まるぎりぎりまで仲間で勉強して、家族より多くの時間を過ごしました。信頼している仲間だからこそ、お互いに授業を見合い、様々な視点や意見を知ることができ、仲間から学ぶことが多くありました。試験が不安で追い込みすぎでつらく、泣いてしまうときもありましたが、絶対に仲間が励ましてくれ、支え合っていました。また、仲間だけでなく、音楽科の先生方やキャリアや講座の先生方がアドバイスをしてくださったり、夜遅い時にはよく差し入れをしてくださったり、多くのサポートをしてくださいました。もちろん、親のサポートもありましたが、やはり、気持ちを分かりあえる仲間の存在はとても大きかったと感じています。普段から頑張っている仲間たちに私は、感化されてこの4年間を頑張ることができ、教員採用試験を乗り越えられたと思います。今の自分があるのは、本当にここで出会った仲間がいるからだと心から感じています。福岡教育大学はそうに感じることができる素晴らしい大学だと思います。



中等音楽の友達とのバーベキューの様子



福岡県教員採用試験
中学校 合格

中等教育教員養成課程
音楽科 4年

さか もと ま ゆ

坂本 菜由さん

(福岡県立筑紫高等学校出身)

教員として働くことへの意気込みについて

4月から私は教壇に立ち、一教員として生徒と向き合っていきます。教員として働くことに今は不安もありますが、それ以上に4月から新しく出会う子どもたちとの出会いにとっても胸を膨らませています。教育実習で学んだことや大学の授業で学んだことを活かして生徒が「楽しい」「わかる」授業をモットーに生徒主体で生徒の意欲を引き出せるように行っていきたいと思います。中学校の頃からなりたっていた教員という仕事に4月から就けるので、1年目だからといって甘えず、先輩の先生方からどんどん学び、福岡教育大学で出会った仲間とともに切磋琢磨しながら自己向上を目指したいと思います。私の持ち味である明るさを活かして子どもたちも明るく楽しく学校に通え、私にしかできない関わり方で生徒と関わり、向き合っていきたいと思います。



大学開放推進事業「音楽を目と耳と体で体験しよう!」での一場面



卒業演奏会での集合写真



卒業演奏会後にクラスの人々と

教員採用試験に合格することができた理由

私の教育採用試験に合格するための必勝ポイントを2つ挙げます。
1つ目は、いかに効率よく勉強を進めたかです。効率よく勉強するためには、友達と範囲を分担し学習したことを伝え合う、1度解けた問題を2回目以降は飛ばしたりする方法があります。いかに効率よく勉強を進めるかは合格するための大きな鍵になると思います。

2つ目は、メリハリをつけて勉強することです。私自身もそうでしたが、毎日12時間勉強するなど現実的でない目標を立ててもあまり長続きしません。1日に○ページ終わらせるなど小さな目標を立てて、積み重ねることが大切だと思います。

また、集中が続かない日や、気持ちが乗らない日もあると思います。そんな時には、思い切って休んでストレスを発散させる方がオススメです。

勉強方法は人それぞれで、自分に合った勉強方法を早く見つけることが合格につながると思います。教員採用試験の勉強はとても辛く苦しいですが、将来の自分をイメージして夢に向かって頑張ってください！応援しています。



宮崎県教員採用試験
小学校 合格

初等教育教員養成課程 4年

くら もと たけ る

蔵元 建留さん
(宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校出身)

私が教員採用試験に合格する上で大切だと思うことは2つあります。1つは、合格を目指す仲間と共にチームを組んで頑張ることです。私も試験の勉強は毎日のように友達と集まって頑張ってきました。特に同じ自治体を受ける友達とは意見交換をしあったり、面接練習をしたりと、お互いに高め合って合格を目指しました。共に頑張る仲間がいれば、挫けそうな時にも、頑張ることができると思います。そういう仲間を見つけてください。もう1つは、ボランティア等で学校現場での経験を積むことです。集団討論や面接で、意見を言う時にはボランティアの経験が必ず役に立ちます。たくさんの児童や現場の先生方と関わり、学んだことを自分の武器にしてください。応援しています。



山口県教員採用試験
小学校 合格

初等教育教員養成課程 4年

くら すみ こう すけ

倉住 幸輔さん
(山口県立徳山高等学校出身)



岡山県教員採用試験
小学校 合格

初等教育教員養成課程 4年

み わか ほ な み

美若 誉那美さん
(岡山県立津山高等学校出身)

私は、教員採用試験に挑む上で、仲間とともに頑張ることと自治体に合った勉強法を練ることが重要だと感じました。

筆記試験の勉強では、机に一人で向かい、集中力や気持ちが高まらないこともあります。そんなとき、ともに遅くまで頑張る研究室の仲間の存在が原動力となりました。二次試験対策も早い段階から授業を見せ合い、アドバイスし合い、その積み重ねは自信につながりました。

また、周りに同じ自治体の同じ教科志望がおらず、どんな勉強方法が正しいのか不安でたまりませんでしたが、キャリア支援センターの先生や大学や地元の先輩、同じ自治体の友人に相談し、とにかく情報を集めることに力を注ぎました。やみくもに取り組むのではなく、自分に合った勉強法をまずしっかりと練ってみてください。

福岡教育大学には、教師を目指すたくさんの仲間がいます。助け合いながら、自分を信じて頑張ってください！



熊本県教員採用試験
中学校理科 合格

中等教育教員養成課程
理科専攻 4年

なか やま り え

中山 理恵さん
(熊本県立熊本北高等学校出身)

私が教員採用試験に合格できたのは、周囲の人の支えがあったからだと思います。受験する自治体は違いましたが、同じ特別支援学校を受験する友達と1次試験に向けて励まし合いながら一緒に勉強したり、2次試験に向けて、面接や模擬授業の練習をしたりしました。友達と一緒に取り組むことで、情報を共有することができたり、自分自身のモチベーションにも繋がったりすると思います。

2次試験に向けては、キャリア支援センターの講座に参加したり、友達と一緒に練習をしたりしました。何度も繰り返し練習をしたことで、自分の改善点や強みが分かり、本番も落ち着いて自分の力を発揮することができたのではないかと思います。

皆さんも周りの人と支え合いながら、最後まで頑張ってください。



島根県教員採用試験
特別支援学校 小学部 合格

特別支援教育教員養成課程
知的障害児教育専攻 4年

いし とび ま ほ

石飛 真帆さん
(島根県立出雲高等学校出身)

私は、4年の4月まで教員になるかを迷っていました。最終的に教員になろうと決意したのは、採用試験のために教員を志している友人たちと模擬授業や集団討論の練習をしていく中で、教員の魅力を再確認できたからです。キャリア支援センターの先生を紹介してくれたのも同じ自治体の採用試験を受ける友人でした。こうした友人の支えが私の教員採用試験に合格できた理由だと思っています。

これから採用試験を受ける皆さんの中には、私のように教員になることを、まだ迷っている人もいると思います。そんな時は、教員を志している周りの友人の話を聞いてみるというかもしれません。辛いことばかりでなく、教員の仕事のやりがいや魅力を再確認できると思います。そして、教員になることを決意できたら、それからでも遅すぎることではありません。キャリア支援センターや同じ自治体を受ける友人などを頼って、情報収集をし、採用試験に向けての勉強を開始してみてください！



大分県教員採用試験
中学校数学 合格

中等教育教員養成課程
数学専攻 4年

たき だ りょう た

瀧田 凌太さん
(大分県立大分舞鶴高等学校出身)

私は長崎県の教員採用試験を受験しました。受験の中で大事なと思ったことを紹介します。

まず、1つ目は試験までの計画をしっかりと立てることです。私は勉強を始めたのが遅かったので、試験までに間に合わせるために、この日には絶対にここを勉強するというのを決めて毎日勉強に取り組みました。その日にすべきことが決まっている分集中して勉強でき、気分が乗らないような日でもやらなきゃ!というように気持ちを奮い立たせることができました。

2つ目は、さまざまな経験を積むことです。ボランティアやアルバイトやサークルなど直接的には試験と関係ないことでも、真剣に取り組んだことは全て人間的な魅力を高めるための財産になると思います。

大変なことも多いと思いますが、夢に向かって頑張ってください!応援しています!!



長崎県教員採用試験
高等学校 合格

中等教育教員養成課程
美術専攻 4年

はり もと みず き

播本 瑞季さん
(長崎県立長崎西高等学校出身)

しの ざき かつ ひろ
篠崎 勝博先生

生まれも育ちも宗像市。「福教大が赤間に設立されたのが小学5年生の頃です。今でも鮮明に覚えています」。本学特命教授及び教育実習コーディネーター。

特集2 福教大OB・OG先生×現役学生

不変・不屈の 教師力

昨今、暗い話題ばかりが取り沙汰される教育現場。センセーショナルな話題の一方で、今も、教職を目指す学生の多くがそのきっかけに「憧れの先生」の存在を挙げます。「自分もあんな先生になりたい!」と慕われ、その背中を追われるような先生が、子どもたちと向き合っているのも教育現場のひとつの真実です。そこで今回は、約40年間にわたって教員、教頭・校長まで勤め上げた福教大OB・OGの3人の先生方を迎え、座談会を開催。長年、教育現場で泣き笑いしてきた先生方だからこそ語ることができる教員という仕事の大変さ、その苦勞に勝る喜びについて、福教大生とお話を伺いました。



「学級経営」に求められる力 やんちゃなクラスを一つにまとめ、 学力を向上させた手立てとは?

——教職を目指し、本学で学んでいる学生の皆さん。教育について学んでいるからこそ、不安や迷いなど、ただ先生に憧れていた頃とは違う教職への思いはありますか?

木庭さん 自信をもって教壇に立てるのか不安に思うことがあります。例えば、学級経営について学んだとき「良い学級って何だろう」と考えてみたんですが、うまく想像ができなくて……。今、学校現場では、学級崩壊やクラス内の学力差など様々な問題があると耳にします。クラスでそういう問題が起こったとき、担任として解決する力が自分にあるのか自信が持てません。

篠崎先生 不安を感じるのは自然な感覚ですよ。心配しなくても大丈夫、みんな同じです。教職に就いて、長年教師をしていても学級経営に全く不安のない先生はいません。大切なのは、迷い、悩みながら、一生懸命に子どもたちに向き合っていくことです。

まず第1に、学級経営で私が大切にしてい



たのは「クラス目標」を立てること、そして、目標達成のために何をやるかの「手立て」を持つておくこと。私の場合は、子どもたちと一緒にクラス目標を考え、外で一緒に遊ぶことを通して子どもたちと向き合ってきました。

大竹先生 私もまず最初に「さて、どんなクラスにしようか?」と子どもたちと話し合っってクラス目標を作成していました。周りを見ても、先生の理想を押し付けるやり方ではなく、子どもたちと話し合い、共有化するのが上手な先生は学級経営がうまくいっていたように思います。「学級崩壊」という厳しい表現がなかっただけで、学級運営のむずかしさは昔からありましたから。

谷口先生 私にも忘れられないクラスがあります。非常にやんちゃな子どもが集まった学級で、静かに話を聞けない、整理整頓ができない、そんなクラスでした。周りの大人たちも「ダメな学級」という目で見えていたし、当の子どもたちも「自分たちはダメ」と思い込んでいる様子で。ただ、そのクラスの教壇に初めて立ったとき、子どもたちの笑顔がとてもよかったんです。そして、話をしてみると一人ひとりの発想力も豊か。この子たちの良さを引き出していく方法として、私は「書く」という活動を続けました。

——「書く活動」とは具体的にどのようなものですか?



たに ぐち しん じ
谷口 慎二先生

長崎県の崎戸島出身。少年野球の指導歴も長く、現在もプレーヤーとして活動中。本学特命教授及び学生ボランティアコーディネーター。

おお たけ

大竹ひとみ先生

北九州市出身。還暦を迎えた折に教え子の皆さんがお祝いの席を設けてくださったとか。本学特命教授及び就職支援アドバイザー。

いわ なが はる か

岩永 晴加さん

初等教育教員養成課程2年。趣味は小学校から続けているバスケットボール。教職を目指したきっかけは「小学6年生の担任の先生に憧れて」

こ ば み さと
木庭 実里さん

初等教育教員養成課程2年。地元・熊本で教職に就くのが目標。「小学校5・6年生でお世話になった担任の先生のような、子どもに寄り添う教師になりたいです」

まつ お かなめ

松尾 要くん

中等教育教員養成課程2年。中学の頃から教職を意識し、高校時代の担任の先生がきっかけで、現在は高校の数学教師を目指す。塾と居酒屋でアルバイト中。

谷口先生 例えば、帰りの会では今日の1日を振り返る感想文を毎日書かせました。最初は原稿用紙に1行だけ、「面倒くさい」しか書かない子もいました。その1行に対しても決して否定をせず、「なるほど、君はそう思ったか。先生が付け加えるなら、今日はこんなところにも良さがあったと思うよ」と肯定的な返事を添えて返す。こうした返信を根気よく繰り返しているうちに、子どもたちは感じたことを素直に表現するようになり、次に友だちの良さを見つけられるようになり、考える力がつくことで結果的に学力も上がりました。

篠崎先生 教師は子どもとの信頼関係をつくらなければ何も始まりません。まずは、先生は「自分を助けてくれる存在」だと信じてもらうこと。例えば、授業で間違えた答えを発表した子がいたら、間違いを正すことより褒める方が有効です。「その答えは間違っているけど皆がよく引っかかるところなんだよ、よく気がついたね。あなたが発表してくれたから、このクラスでこの問題を間違える人はもういない。勇気をもって発表してくれてありがとう」。すると子どもは、「もし答えが間違えていても先生がフォローしてくれるから大丈夫だ。恥を



かかない」と安心して、また手を上げられるんです。一人ひとりにそういう姿勢で向き合っていると、子どもは先生のことが大好きになり、クラスの温かい雰囲気づくりにも繋がります。

**コミュニケーション能力の大切さ
保護者は昔も今も手強い存在!?**

松尾くん 学生時代に勉強やボランティア以外に経験しておいた方が良いことは何かありますか？

篠崎先生 まずは「自分の人生に積極的な姿勢でいること」が大切だと思います。特に若いうちは恋愛したり失恋したり、アルバイト先でいろんな人と会えるのもいい。成功や失敗、いろんな経験をしながら何が教師としてプラスになるのかを考えて、日々成長していけばいいと思います。

子どもが問題行動を起こしたとき「なぜそんなことをするんだ!」と怒るのではなく、「なぜそんなことをしたんだろう?」と理由や原因、背景に目を向ける力は教師の素養の一つですが、その「おもんばかり」は様々な経験を通して育まれるものだと思います。



大竹先生 どんな人とも関わることができるコミュニケーション能力は、保護者対応でも役に立ちます。今は保護者対応がむずかしいと言われますが、昔は昔で手強い保護者の方も少なくなかったんですよ(笑)。でも、真剣に誠意をもって対応することで、信頼関係を深めることができました。

——どんな保護者の方がいらっしゃいましたか？

大竹先生 例えば、中学受験をする子が多い学校では、保護者の皆さんも非常に教育熱心です。多くの保護者が学習指導要領を持っておられて非常に驚きました。授業参観ともなれば、懇談会で「今日の授業のねらいについてお聞かせください」「どんな力がついたんでしょうか？」と鋭い質問が来るので、しっかり準備をして対応していました。根底にあるのは、わが子を大切に思う気持ちですから、そう考えると保護者も教師も思いは同じなんですよね。

谷口先生 私は保護者の方々にいつも力を貸してもらっていました。地域の行事やお祭りに顔を出したり、少年野球の指導でもよく顔を合わせていたんですね。だから、花壇をつくろうとかキャンプをしようとか、何か発案するたび保護者の方が「谷口先生がやるなら手伝うよ」と協力してくださって。自分から地域に入っていくのも関係づくりの一つの方法かなと思います。

篠崎先生 先輩教員から学ぶことも多かったですね。学級経営が上手な先生は、「はい!」と声に出して挙手をするとか、学習規律がしっかりしているんです。それから、集会の企画や運営力も学ばせ

いただきました。6年生を送るお別れ集会で、模造紙20枚をはり合わせて、そこに卒業生一人ひとりを模した鳩をクラスの人数分作って飛ばしたりもしました。このように教師の温かい演出に感動して涙を流す子も少なくありません。大学の授業ではなかなか学べない部分でもあるので、ボランティアなどでそういうお別れ集会に参加してみるのがいいと思いますよ。

やっているフリは子どもに見破られる 誠実に実行する「師弟同行」

——約40年近く教職を続ける中で、先生方が大切にしてきたことを教えてください。

谷口先生 教え子たちに言われるのは「先生はいつも継続は力なりを実践していた」と。その通りで、指導においても「継続すること」を大切にしてきました。先の「書く活動」もそうですが、どんなことも続けていると、できなかったことが少しずつできるようになる。「自分にもできた」という小さな成功体験の積み重ねが、やがて自己の有用感につながり、あわせて周りの期待を感じることも子どもの成長に繋がる要素だと思います。

篠崎先生 教師としてのモットーは「師弟同行」です。子どもに勧めることは、私自身も行う。本を読む子どもを育てるなら私自身もたくさん本を読む、元気に遊ぶ子を育てるなら一緒になって私も遊びます。大切なのは、かたちだけではなく誠実に実行すること。「やっているフリ」は子どもたちに見破られますから。

木庭さん 師弟同行、素敵な指導だと思います。理想とする姿を自分が率先してやってみせる。授業でも「子どもに寄り添う」ことの



切さを学びましたが、そういうところにも繋がるお話しですね。

大竹先生 かつての教え子に言われてハッとしたことがあります。「小学校時代の思い出で忘れられないことがあります。体育の授業で、僕はクラスで一人だけ跳び箱が跳べなかった。でも失敗したとき、先生が駆け寄って来て、〈大丈夫、次は必ず跳べるよ。あなたなら絶対にできるよ〉と言ってくれたんです。それで跳べるような気がしてやってみたら、本当に跳べた。あのとき先生が掛けてくれた励ましの言葉は僕の中にずっと残っています」と。実はこの話を私自身は覚えていないんです、何気なく言ったことだったから。でも、彼は大人になってからも心の励みとして鮮明に覚えてくれているんですね。彼の話聞いて、教師は子どもにかけける言葉を大切にしなければと改めて身が引き締まる思いがしました。

篠崎先生 子どもは何かきっかけがあると、いきなり成長することがありますよね。役割を任せられたり、リーダーになることで変わったり。

大竹先生 そう思います。すごくやんちゃで、気に入らないことがあるとかんしゃくを起こして物を蹴ったり、乱暴する子がいたんですが、よく見ているとクラスで飼っていたメダカのお世話を誰よりよくやっていた。それである時、メダカのことを作文に書かせてコンクールに応募してみたんです。すると賞をもらって。「すごいね」と周りから褒められて、認められたと本人が感じることで、その子はどんどん変わっていききました。

——その子にはどんな声掛けをされたんですか？

大竹先生 こちらも私は覚えていなかったんですが、高校生になった彼と再会したとき、「先生は僕に〈あなたは命を大事にする優しい子なんだね〉」って言うてくれたんですよ。そう言われたことで、人に優しくしようと思ったんです」と言うてくれて。教師としてすごく嬉しかったです。

岩永さん 一生の励みになるような言葉を伝えられる。人生に影響を与える分、責任も大きいですが、やっぱり先生って素敵な仕事ですね。

谷口先生 子どもの成長は教師冥利に尽きますね。私もやはり子どもたちの成長を感じる瞬間がいちばんの喜びでした。

——クラスの子どもたちが、谷口先生のことを作文にしてくれたこともあるとか？

谷口先生 卒業前に子どもたちで示し合わせて「先生の生き方、考え方」というテーマで一人ずつ作文を書いてくれたことがありました。「谷口先生に会うまで、先生とはただ勉強を教える存在だと思っていた」「先生は心の勉強もしてくれた」「先生は人のよいところを見つけるのがとても上手」など、面映ゆいですが全員の作文を今も大切に持っています。本当にうれしかったですね。

**「あの先生みたいになりたい！」
教員を目指すきっかけは憧れの先生。
生涯をかけ心血を注ぐに値する仕事。**

——改めて「教師という仕事の魅力」についてお聞かせください。

谷口先生 子どもの成長に立ちあえることが最大の喜びであり、や



りがいだと思います。最初は顔を水につけることもできなかった子が、顔を濡らす練習から始まって、潜水できるようになり、最後は25mを自力で泳げるようになる。この変化、成長の過程をそばで見ていると抱きしめたくなるほど大きな喜びを感じるはずですよ。

それから、子どもたちの未来も楽しみの一つ。学校を卒業し、大人になった教え子たちが、優れた能力を持って社会に貢献している姿を見ると誇らしい気持ちになります。立派になった彼女らが、元気に「先生！」と声をかけてくれるたび、教師にとって日々の教育は大きな投資のように感じます。

大竹先生 教職は子どもの成長に携わることができる本当に素敵な仕事だと、現場を離れて改めて思います。子どもたちは学力の向上だけでなく、学校生活の中で心も成長していきます。そして、その成長に教師が寄り添う場面も少なくありません。座談会に参加してくれた3人もそうですが、教員を目指す学生の多くがかつてお世話になった大好きな先生の面影を追って同じ道を志します。「あんな先生になりたい！」と強く憧れられる先生が、学校現場にはたくさんおられるわけです。そういう先生が昔も今も、おそらく今後も、変わらず存在し続けるのは、教育という仕事が奥深く、面白く、生涯をかけるに値する仕事だと実感するからだと思います。私自身も教職の道を選んで本当に良かったと思っています。そして、一人でも多くの福教大生が、素晴らしい先生になってくれると嬉しいなと思います。

篠崎先生 人を育てるという大きなやりがい、そして教職にはもうひとつ、余計なウソやゴマすりが必要ないという側面もあります。相手が子どもだからこそ、真つすぐさ、誠実さが強みになりますから。

教師に求められる根本的な能力は3つあると思います。1つ目は分らないことを理解させる「授業力」、2つ目はクラスを運営する「学級経営力」、3つ目は円滑なコミュニケーションができる「豊かな人間性」と言われます。しかし、この3つを身に付けた先生以上に、子どもたちが心から求めるのは自分と一生懸命に向き合ってくれる先生です。まずは、明るく元気に快活に。病気をしていたら教壇に立つことはできないし、快活でなければ子どもたちは安心して心を開くことができません。悩みながらも子どもたちに向き合い続けたいという思い、子どもの成長に喜びを感じられる感性があれば、素晴らしい先生になれると思います。皆さんの活躍に期待しています。



卒業生や保護者の皆さんから贈られた手作りの寄せ書きやアルバムには、先生への感謝の言葉がいっぱい。先生方は定年後も教え子の皆さんや保護者の方々と交流されているそうです

教員紹介 & 学生から見た先生の魅力について

社会科教育ユニット

すぎ むら しん じ
教授 杉村 伸二

出身地: 島根県
最終学歴: 関西大学大学院
文学研究科博士後期課程
取得学位: 博士(文学)
本学着任: 2007年



東アジア世界の中で 日本の歴史を考えよう

専門の研究テーマについて

専門は中国古代史です。戦国後期から漢の武帝(前300年ごろ～前100年ごろ)あたりまでの時代の政治や制度について、『史記』などの文献史料や中国で出土した竹簡の解読、遺跡の調査などを行い研究をしています。この時期は中華帝国の基礎ができる時代です。その後2000年も続く中華帝国が、どのように成立していったのかについて考えています。

大学教員に進むことになった きっかけについて

生まれ育った家の周りに遺跡や古墳があり、小さなころから日本の古代史や考古学に興味がありました。最初は地元の島根で高校の歴史の教員が発掘調査に携われればと思っていましたが、大学で出会った中国古代史の先生に惹かれて、そのまま中国古代史を専攻し、大学院へ進学して研究者を目指すことにしました。



研究室にて

研究成果の教育への 還元について

私の専門分野である中国の歴史は、日本の歴史や文化の成り立ちに大きな影響を与えてきました。小学校や中学校社会科の歴史分野では日本史が中心になりますが、中国史の側からみると、また違った視点で日本の歴史が見えるようになります。そうした点を意識しながら、中国から見た日本の歴史や中国と日本との交流について学生たちに伝えています。とくに福岡は古くから中国との交流が盛んで、多くの遺物や遺跡が残されています。それらを小学校や中学校の歴史の授業の中で活かせるように工夫しています。

こだわりの物・考え・モットー について

特にこだわっている考え方などはありません。むしろ、歴史学の研究を行う時には「こだわらない」ことが重要だと思っています。自分の考え方や歴史の見方が絶対ではないということを常に考慮に入れておき、新しい見方や自分とは異なる別の視点からの考え方があれば、もう一度考え直さなければなりません。自分の考え方にこだわって、新しい見方や考えから目を背けないように気を付けています。



漢代の万里の長城の調査風景

福岡教育大学で学ぶ学生に一言

大学生のうちに様々なことを経験してください。勉強はもちろんですが、アルバイトやサークル活動、旅行や映画鑑賞などの「遊び」も含めて。卒業すると、なかなかまとまった時間は取れなくなります。今経験したことが将来の自分の「引き出し」になります。学生時代にたくさんの「引き出し」を準備しておいてください。



学校教育課題研究の様子

学生から見た先生の魅力について

むとう こうだい 武藤 晃大 (初等教育教員養成課程4年)
いしくら なおゆき 石倉 直志 (初等教育教員養成課程4年)
かつき みどり 香月 翠 (初等教育教員養成課程3年)
きむら みさき 木村 美咲 (中等教育教員養成課程社会科専攻3年)

杉村先生は、いつも親身になって相談に乗ってくれるとても親しみやすい先生です。学校教育課題研究等で困ったことがあったら、すぐに先生のところへ相談に行きました。多忙にもかかわらず、的確なアドバイスをしていただき、本当にありがたかったです。また、非常に知識が豊富で、しかもその説明や解説がとても面白くて分かりやすいです。深い教養を基に、楽しく授業が出来る杉村先生はとてもかっこいいです。



学校教育課題研究で学ぶ学生たち

1 「若手教員による研究成果発表会」の開催

本学では、令和元年10月24日(木)に、「若手教員による研究成果発表会——平成30年度大学教員活動評価の評価結果に基づく研究活動支援事業——」を開催しました。

本発表会は、「大学教員活動評価」の結果に基づき研究活動の支援を受けた若手教員が、その翌年度に研究成果の発表を行うために、開催されるものです。平成26年度に初めての発表会が開催されて以降、六回目となる今回は、石橋直講師、奥谷めぐみ准教授、川口俊明准教授、熊谷亮講師、菅沼敬介助

教、樋口裕介准教授、樋口善之准教授の7名が、ポスター発表を行いました。

発表会には約50名の学生・教職員が参加し、ポスターの内容や、日頃の研究活動について、発表者と質疑応答が行われました。参加者からは「若い研究者の発表の機会として、今回のポスターセッションはとても有意

義と思いました。」「それぞれの新たな観点からの研究にふれることができ勉強になりました。」などの感想が寄せられました。

令和元年度も、大学教員活動評価の結果に基づき、若手教員に研究活動の支援を行っています。該当教員は、令和2年度にその成果を発表する予定です。



あいさつをする櫻井学長



発表会の様子

2 2019年度大学開放推進事業「教育大へ行ってみよう!」の開催

福岡教育大学では、令和元年11月10日(日)に、学内にて大学開放推進事業「教育大へ行ってみよう!」を開催しました。

この事業は、小・中学校の休業日に大学を開放し、「科学」「ものづくり」や「音楽」など、様々なテーマをもとにした実験や実習を間近で見る、または実際に体験することで、子どもたちに「科学の不思議さ」「作り上げていくことの達成感」「音楽の楽しさ」などを味わってもらうことを目的として、平成11年度から実施しています。

九州旅客鉄道株式会社(JR赤間駅)やトヨタ自動車九州株式会社、コスモ・バイオ株式会社公開講座応援団、そして子どもゆめ基金助成活動の協力・協賛のもと、科学実験・体験、ものづくり・音楽体験企画として15のコースを実施し、子どもとその家族合わせて約1,300名の参加がありました。今年度も当日は天候にも恵まれ、各会場では、大学生や教職員の実演や説明を熱心に見聞きし、科学やものづくり等の楽しさに触れるたび、身を乗り出しながら目を輝かせる子ど

もたちであふれていました。

そして、保護者の皆様も、各企画の趣旨や意図を掴もうと真剣に耳を傾ける姿、子どもの頃に戻ったようにものづくりに触れる熱心な姿が印象的でした。

参加いただいた方からは、「家や学校でできない体験ができてよかった!」「家に帰っても実践できることをやってみたい!」など、多くのお言葉をいただきました。



参加した子どもや保護者の様子

令和元年度第5回学生ボランティア活動報告会の開催

令和元年11月15日(金)に、「令和元年度第5回福岡教育大学学生ボランティア活動報告会」を開催しました。ボランティア活動を行う学生を多く受け入れていただいている近隣地区(宗像市、福津市、福岡市、遠賀郡4町)の教育委員会関係者の方々、ならびに宗像地区、遠賀郡の各地区小中学校長会の会長の方々、宗像地区内のコミュニティ・センターの会長・事務局長、学内からは学生と大学役員・教職員、後援会会長、及び同窓会事務局職員等、合わせて約210名の参加がありました。

はじめに、学生ボランティア活動認定学生の表彰式を行い、本学の認定基準に達した「リーダー認定者」7名、「チーフ認定者」14名及び「サポーター認定者」49名が、櫻井学長から表彰されました。

続いて、糸島市の小学校での学習支援ボランティア、東北震災教育支援ボランティア、宗像地区の子どもたちを対象に様々な体験活動を行うボランティア、ひとり親家庭の児童生徒の学習支援を行う社会福祉関係ボランティア等、様々なボランティア活動経験者4名による実践報告を行いました。活動経験者からは、ボランティア活動を通して、子どもたちとの接し方への気づきや学びを得ることができ、自分自身の成長を感じたことや、保護者や地域の方々と連携することの重要性を感じたこと、また、ボランティア活動の経験を通して、教員になりたい気持ちがより高まったこと等、意欲的な発表が行わ

れました。

最後に、「ボランティア活動を振り返って」と題し、シンポジウムを行いました。4名のシンポジスト(学生代表)がボランティア活動や認定制度の良さを発表し、意見交換する中で、本学のボランティア活動の価値を明確にすることができました。また、本学の生田教授から指導助言があり、「学生のボランティア活動報告書を基に、“ボランティア活動の体験は、教師としての資質能力習得にどのような効果があるのか”をテキストマイニングの手法で分析した結果、教員養成をミッションとする本学の学生ボランティア活動の目的に沿った学びがなされていることが明らかになった。」など、今後のボランティア活動を推進していく上での展望が示されました。

ご来賓の方を代表して、宗像市教育委員会の高宮教育長より、「実行委員会の学生たちによるボランティア報告会は素晴らしいものでした。発表内容もパンフレット等もボランティア活動を通して自己成長できたことが本当によく分かりました。この経験を教員となってからも存分に活かしてください。」と励ましのお言葉をいただきました。

報告会に参加した学生からは、「ボランティア活動は、教員となって子ども一人ひとりの実態に応じた対応ができることを学べることが分かった。」「私も先輩方のように、ボランティア活動を通して様々なことを経験していきたい。」といった感想が寄せられ、今後の活動に繋がる有意義な報告会となりました。



櫻井学長より表彰される代表学生

全日本視覚障害者柔道大会で柔道部男子学生が2連覇

令和元年12月8日(日)に、講道館で第34回全日本視覚障害者柔道大会が開催されました。本学柔道部の瀬戸勇次郎さん(特別支援教育教員養成課程中等教育部2年生)は、本大会男子66kg級に出場し、リーグ戦の4試合ですべて一本勝ちを収め、昨年に続き、堂々の2連覇を達成しました。2016年リオデジャネイロパラリンピック日本代表の藤本選手との対戦では、消極的だった瀬戸さんに指導が与えられましたが、終盤に背負い投げで技ありを奪い、そのまま袈裟固めで抑え込み、合わせ技による一本勝ちを収めました。

瀬戸さんは令和2年3月に講道館で開催される東京国際視覚障害者柔道選手権大会に日本代表選手として出場することが決まっております、今後の活躍が期待されています。

瀬戸さんは本大会を振り返り、「今回の試合では技、集中力、試合運びなどの点において自分の思うようなパフォーマンスが発揮できな

かったと感じています。次の試合では自分の力を出しきれよう、これからも稽古に励みます。」と抱負を述べました。



優勝した瀬戸さん



試合の様子

創立70周年記念事業の挙行

本学では、11月24日(日)に、創立70周年記念事業として、記念式典、記念講演会及び記念祝賀会を挙行了しました。本学アカデミックホールで行われた記念式典には、文部科学省、福岡県、県内教育界の各関係者、本学学生及び教職員など約200人が参列しました。

式典に先立ち、本学音楽教育ユニット原田大志准教授、篠原友里助教によるバイオリンとピアノの演奏が行われ、会場から大きな拍手が送られました。

式典では、櫻井学長が、本学にご支援、ご協力いただいた多くの方々に謝辞を述べるとともに、「本学は、教員の養成、採用、育成という教職のライフステージすべてにわたって、貢献することを使命とし、特に養成にあたっては、豊かな知を創造し、力のある教員を育てることを明言しました。これを実行すべく入学試験や教員組織などの改革を実施したところです。加えて、本学は教員の養成や育成における広域の拠点的作用を担うため、教員研修支援センターを発足しました。本学はこの度の創立70周年記念を迎え、更なる発展を目指します。」と決意を表明しました。

来賓祝辞では、淵上孝文部科学省高等教育局国立大学法人支援課長が文部科学大臣の祝辞を、江口勝福岡県副知事が福岡県知事の祝辞をそれぞれ代読されました。

続いて、行われた記念講演会では、尾崎春樹学校法人目白学園理事長による「新学習指導要領の実施に向けた学校の課題(福岡県のエデュケーション事情を中心に)」と題し、学力に関するデータを基に、本学が地域の児童・生徒の学力向上にどのような役割を果たし得るのかなどについて講演されました。

講演会終了後、同体育館での記念祝賀会に先立ち、音楽教育ユニット原田大志准

教授、学校教育ユニット飯田史也教授及び本学学生による演奏が行われ、見事に調和された演奏に会場の参列者は聴き入り、大きな拍手が送られました。その後、城戸秀明福岡県教育委員会教育長からの祝辞のうち、来賓と本学関係者による鏡開きと、高宮史郎宗像市教育委員会教育長の発声による乾杯が行われました。会場は終始和やかな雰囲気につつまれ、最後に太田勝視福岡教育大学同窓会長の万歳三唱で閉会となりました。



講演する尾崎学校法人目白学園理事長



祝賀会で祝辞を述べる
城戸福岡県教育委員会教育長



記念式典の様子

令和元年度九州教員研修支援ネットワーク第2回協議会の開催

今年度2回目となる「令和元年度九州教員研修支援ネットワーク協議会」を令和元年12月23日(月)に、本学で開催しました。

今回のネットワーク協議会では、九州各県・政令指定都市・中核市の教育委員会関係者、九州管内の教員養成機能を有する大学の研究者等およそ50名が一堂に会しました。

協議会の冒頭、櫻井孝俊学長が、「各県・政令指定都市では、ネットワーク協議会の前身となる『九州地区教員育成指標研究協議会』が平成28年度に開発した教員育成指標のモデルを参考にしながら、教員育成指標や教員研修基本計画を策定し、ライフステージに応じた研修を展開してきたが、教員育成指標の教員への周知や教員育成指標の活用の在り方等に課題が生じており、本協議会で議論を深めて持ち帰り、一層の研修の充実を図っていただきたい」と挨拶をしました。

その後、大分県教育センター 中津熊指導主事より「大分県における教員育成指標の活用状況について」、千葉県総合教育センター 小林研修企画部長より「研修指標を活用した教職員研修と研修履歴システム『Asttra』について」、それぞれ事例報告が行われ、PDCAサイクルを活かした教員育成指標に関連づけた研修や、教員育成指標と研修履歴を一体化して学び続ける教員の育成について紹介されました。

そして「教員育成指標の活用とPDCAサイクルを生かした教員研修の充実」と「教員育成指標と教員研修履歴との一体化による学び続ける教員の資質向上」の二つの分科会に分かれて協議が行われました。教員・学校・教育委員会レベルでの研修や大学の養成段階での教員育成指標の具体的な活用の紹介、更にはシステムを導入するための課題等について活発な意見交換が行われました。最後に、情報教育、特別支援教

育や初任者の学習指導等に関して、ネットワークで教育委員会と大学とが連携して取り組み始めた研修動画等コンテンツの開発状況等の報告が行われました。

ネットワークでは、近く立ち上げるホームページ上に、開発した研修動画等コンテンツを掲載して参画機関の研修に提供したり、九州地区の大学教員の研修講師データベースを設ける等行い、効果的、効率的な研修の実施に繋がりたいと考えています。

九州各県・政令指定都市・中核市の教育委員会は、様々な教育課題の解決に向けて取り組んでいます。ネットワークでは県域を越え参画する大学機関や教育委員会の専門的知見や優れた事例を活かし情報共有や意見交換をしながら、九州の教育の充実に資するよう取り組んでいきたいと考えています。



開会の挨拶をする櫻井学長



九州全域から約50名が参加した協議会

釜山教育大学校との学生教育交流事業の実施

本学は、韓国の韓国教員大学校、釜山教育大学校と国際交流協定を締結し、相互に学生の留学等を行っています。

また、将来の教育者としてグローバルな視点や指導力を持った教員の養成を行うことを目的に、様々な学生交流を推進しています。その一環として、毎年短期の相互学生教育交流を通じて、両国の社会や文化を学んでいます。

今年度は、釜山教員大学校の学生等を令和元年1月8日(水)から10日(金)までの3日間受け入れ、本学の学生等との学生教育交流事業を行いました。

この事業には釜山教育大学校から学生

3名、職員2名、本学から学生7名及び職員が参加し、期間中はグループディスカッション、日本文化体験(和楽器「箏」、書道体験)、教育関係交流(本学附属幼稚園、福津市立福間東中学校)、歓迎交流会、平成29年7月に世界遺産に登録された「神宿の島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の宗像大社辺津宮の見学等を行いました。

特別講義や各種交流等を通じて、学生が両国の社会や文化を学ぶとともに、将来の教育者としてのグローバルな視点や指導力を持った教員の養成を行うことに寄与しました。



和楽器「箏」体験の様子



書道体験

令和元年度福岡教育大学学生表彰式の実施

令和2年2月17日(月)に、本学第一会議室において、令和元年度福岡教育大学学生表彰式を行いました。

本表彰は、研究、課外及び社会活動等において、特に顕著な成果や功績を収めた学生及び学生団体を表彰するもので、今年度は14名の学生と1つの学生団体が表彰の対象となりました。

表彰式では、後援会会長、役職員及びクラス担任等が見守る中、櫻井学長から対象学生及び学生団体の代表者に、表彰状と副賞が贈呈されました。櫻井学長から、「学生表彰には、皆さんの日々の努力を讃えることに加えて、皆さんが本学の名声を高めたと認められる意味合いがあります。皆さんのご活躍には、皆さん自身の並々ならぬ努力があったと思いますが、ご家族や指導していただいた先生方の支えがあってこそ成果を収めることができ

たと思います。これからも周囲の方々への感謝を忘れずに、頑張ってください。本日は、誠におめでとうございます。」との激励の言葉と祝辞が述べられるとともに、後援会会長からお祝いの言葉をいただきました。

また、学生代表として、大学院 教育科学専攻 教科教育創造コース 技術教育領域2年の後藤 栄太さんから「それぞれの活動での成果は、大学の環境及び周囲の方々の後押しによるものです。今後、自らの能力を高められるように研鑽に努め、さらなる飛躍を期したいと思います。また、後援会よりいただいた副賞は今後の課外活動、研究活動のために使います。」との感謝の言葉と抱負が述べられました。



学生表彰受賞者と学長(中央)、後援会会長(中央左)及び関係者

福岡教育大学ESDセミナーの開催

令和2年2月16日(日)に、福津市立図書館研修室において、「福岡教育大学ESDセミナー」を開催しました。

令和元年12月19日に、第74回国連総会において、新たな国際的枠組み「持続可能な開発のための教育:SDGs達成に向けて(ESD for 2030)」の決議が採択され、ESD (Education for Sustainable Development) はSDGsの達成の不可欠な実施手段であるとされています。

国際社会に対し、幼児教育から高等教育など、すべての教育段階において包摂的かつ公正な質の高い教育を提供するよう求められている事情に鑑み、SDGsに向かう「ま

ちづくり」、SDGsに向かう「ひとづくり」について、ノウハウを共有できるセミナーとすることを、今年度のESDセミナーの目的としております。

当日は、本学石丸哲史教授による「趣旨説明」とともに、福津市・北九州市・大牟田市による「SDGs未来都市のまちづくりについて」、静岡大学田宮縁教授による基調講演「SDGsと幼児教育」、子うさぎの森保育園(福津市)・ひかりの森こども園(宮崎県)・ブライトキッズガーデン(北九州市)による「実践交流会」(福津市教育委員会大嶋正紹指導主事が指導助言)、大牟田市教育委員会の荒木秀敏指導室長による「総括」

という内容で、天候が悪い中、111名のみなさまにお集まりいただきました。

ご参加いただいたみなさまからは、「SDGsと教育のつながりが再確認できた」、「具体的な実践例、取組が分かり理解しやすかった」等のご意見をいただき、セミナー開催の目的を達成できたものと考えています。

本学は、九州の教員養成の広域拠点大学としての役割を担っており、今後とも教育に関する教育・研究を総合的に行う九州地区の拠点大学としてESDの推進にも努めてまいります。



主催者挨拶を行う櫻井学長



趣旨説明を行う石丸教授

私たちバスケットボールサークル『SKY』は、男女合わせておよそ80人のメンバーで、木・金曜日の週2回活動しています。バスケットボール初心者から経験者まで多くの人がいるため、「大学からバスケットボールを始めたい!」「高校まで部活で頑張ったから、大学ではゆっくり楽しみたい!」という方におすすめです!

バスケットボールの活動以外にも、季節ごとにたくさんのイベントを開催しています。新入生歓迎会やカラオケ大会“スカラオケ”、海水浴“SKY水浴”、多種目で競い合うクラスマッチ“クラSKYマッチ”、クリスマス会“クリスマSKY”、スノーボード旅行“SKYノボ”、卒業旅行など、イベント名につ



いては多少強引なところがありますが、毎月1つ以上のイベントを企画し、多くの人が参加しています。

『SKY』では、「もっとバスケットボールを楽しみたい!」という人が集まり、福岡市や北九州市の他大学サークルと試合をしています。福岡市で年に4回開催される大学生リーグ戦では、男子3位という好成績を残すことができました!全国大会に繋がる大会のため、試合に出るメンバーは、全国大会出場を目指して特に力を入れています。

これからもさらに楽しい時間を過ごせるようなサークルにしていきます!



サークル紹介

C I R C L E I N F O R M A T I O N



クイズ研究会

私たち『クイズ研究会』は、男子3人、女子4人の計7人で、週1回活動しています。

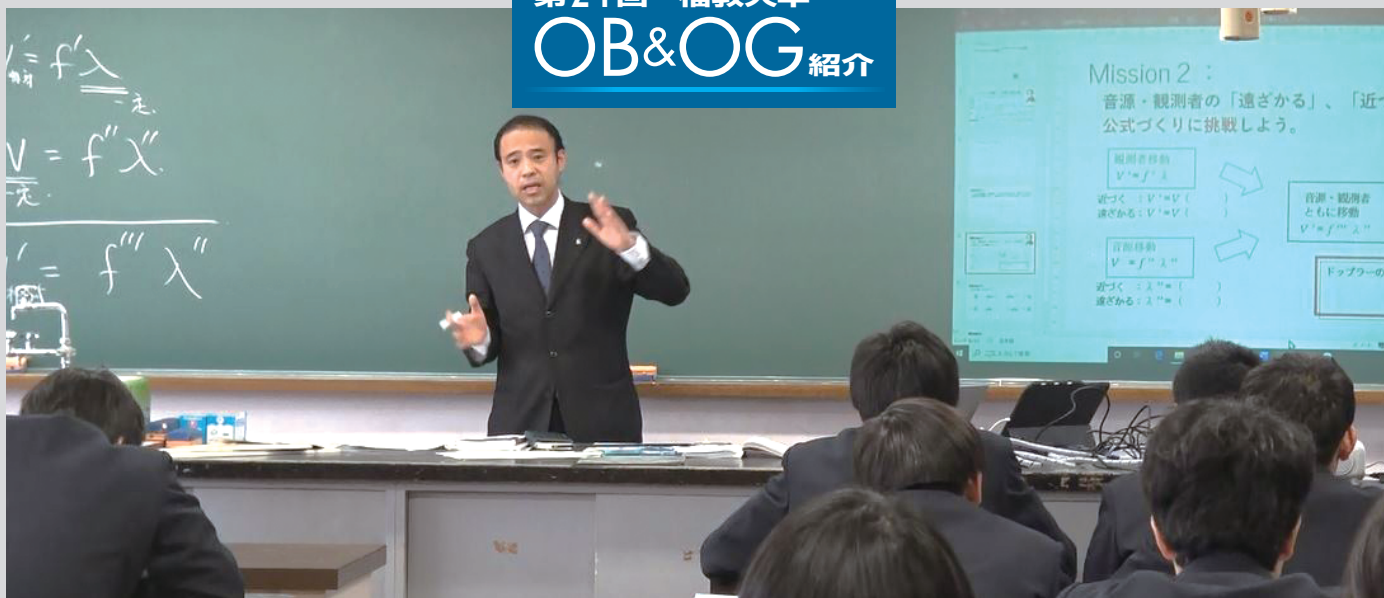
『クイズ研究会』の日々の活動としては、サークルメンバー全員で1つのテーマ(日本の都道府県名や世界の国名、首都名など)に沿ったものを覚える活動や各サークルメンバーが自分の得意なジャンル(哲学、野球、生物、絵画など)のクイズを作り、他のメンバーにクイズを出すというような活動をしています。そのほか、ボランティア活動として、連盟の行うクイズ大会の司会や、福祉施設で高齢の方々にクイズを出すというような特別活動も行っています。



私たちは「クイズ」を通して、教師になるための一般教養や臨機応変に行動する力を身に付けることを目的として活動しており、自分の知らない知識に触れ、楽しむことに重きを置いています。幸いなことに、本学には様々な課程・専攻があり、各サークルメンバーが所属する課程等で深めた知識を交換し合うことができる場所、それが『クイズ研究会』です。

知識があると生き方が変わってきます。人生が豊かになります。身体を鍛えることは良いことですが、頭を鍛えることも将来のために必ず役に立つので、これからも活動を頑張りたいと思います。





授業の様子(ドップラーの考えた方法で公式作りに挑戦)

教師の役割は、外を見るきっかけをつくる「窓」。 九州初のミネルバ大学合格へ

担当する科学部物理班が継続研究として2011年から6年間半取り組んできたものに、「副実像」の研究があります。これを2018年に女子生徒3人が副実像と昆虫の単眼との関係性をまとめ、日本物理学会Jrセッションで発表・最優秀賞を受賞し、物理の教科書(東京書籍)にも掲載されました。さらには、全国大会JSECを経て、高校生の科学研究の世界大会ISEFに出場する機会も得ることができ、理科教師としてこれまで味わったことのない喜びに浸っています。班長の生徒自身も、この大舞台を経験したことで、「基礎研究の大切さを知り、科学は決して利益のためではなく、真理を知りたいという人間の気持ちの延長上にある。また、大発見は真理を追及しようとする過程にあるのかもしれない」という気づきを述べてくれました。彼女はさらに「人間は科学とどう向き合えばいいのか。科学の在り方をグローバルに考えたい」という自ら「問い」を生み出し、昨年、アメリカ・ミネルバ大学を受験し、見事、合格しました(九州初)。保育士を目指していた女の子が、課題研究の経験を通し、合格率わずか1.2%の世界最難関大学と称されるミネルバ大学へ、颯爽と飛び出して行きました。もちろん、彼女だけでなく、この研究に関わった生徒22名のほとんどが自分の道を切り開き、活躍を始めています。教師自ら調べ、生徒とともに準備を行うことは必要ですが、積極性をサポートできる環境が整えば生徒の夢を実現させられる機会が高まると実感できました。若い時期に人生の「窓」を提案できる学校の役割は大きく、まさに教師冥利に尽きます。その素地は、専門性を高く持つ教育に熱い福岡教育大学の先生方のおかげであり、サークルや教育ボランティアとともに汗を流した仲間であったと確信しています。今、学校は改めてやりがいのある場所と実感しています。常に自身自身を磨くことができ、ノルマに追われることなく、ベテラン・若手も一緒になってタッグを組み高め合っている場所はココしかないです。



思考の共有化 生徒同士がミニ黒板で説明を行っている様子

探究型授業という新たな時代へ。学校現場だからできる、時代を先取りした授業づくり

今、AI時代の到来とともに知識の蓄積によって成り立つ職業は消えていくことが予想されており、AIに解けない課題や難題に向き合える人材の育成が求められています。さらには、新学習指導要領や新入試

に対応した授業・教材づくりも学校現場の教師には求められています。そんな中、今、本校が学校全体で取り組んでいる授業が、探究の「問い」を創る授業、いわゆる探究型授業です。これまで普通科目の授業は、先生が知識を生徒に伝達する講義形式の画一的な学習指導が中心でしたが、「一斉的・画一的学びは生徒に悪影響」(教育再生実行会議2019.5.16)と提言され、今、まさに高校現場は大混乱真っただ中です。しかし、僕自身まったく慌てることなく探究型授業をスタートさせることができています。これは、科学部や課題研究で培ったノウハウを授業に生かす視点で授業をつくれればよいからです。本校では、課題研究を6年前から、授業改革を4年前から推し進め、現在、「探究の「問い」を創る授業」と名付けた論理的思考力・論理的コミュニケーション能力の育成を目的とした授業を全ての教科で展開できるようになりました。実は、福岡教育大学の理科教育ではすでに約20年前に「単に知識を詰め込むのではなく、課題研究の要素を取り入れた授業」のノウハウについて僕自身大学院で学んでいましたので、今、ようやく高校現場では探究型授業がスタートする印象です。福岡教育大学6年間で学んだこと全てが、人として、また教育のプロとしての礎を築くことができた実感しています。教師の醍醐味は、「教える」ことではなく「思考力を育てる」ことだと実感しながら、今も楽しく授業づくりを行っています。

後輩へのメッセージ

思い返すと、サークルとアルバイトと勉強、どれも一生懸命でした。特に、家庭教師や塾講師、八百屋のアルバイト、キャンプのインストラクター、シンポジウム巡りなど、多くの経験をする中でいろんなことが学べ、その学びは今でも役に立っています。自分の苦手なものから逃げず、自分のやりたいことには失敗を恐れずに積極的に挑戦し、大学生生活を謳歌してほしいと思います。僕の経験から、より専門的な知識と研究の視点をもった教員は、個に応じた多様な感性と探究心を高められると感じています。可能ならぜひ修士以上の学位を目指してください。

うと
熊本県立宇土高等学校
研究開発部長

かじ お たき ひろ
教諭 梶尾 滝宏 さん

- ・特別教科教員養成課程理科専攻
平成8年3月卒業
- ・大学院教育学研究科理科教育専攻
平成10年3月修了



本学学生及び教職員は平常展を無料で観覧できます ～九州国立博物館～

福岡教育大学は、九州国立博物館を教育、研究面で活用するとともに文化財鑑賞の機会の充実を目的に「九州国立博物館キャンパスメンバーズ」に加入しています。

本学の学生及び教職員は、学生証・職員証の提示により、文化交流展(平常展)の無料観覧や特別展の割引観覧等さまざまな特典を受けることができますので、積極的にご利用ください。

【主な利用特典】

- ① 文化交流展(平常展)の無料観覧
- ② 特別展の割引観覧
団体料金で観覧することができます(観覧料は特別展ごとに異なります)
- ③ 九州国立博物館メンバーズプレミアムパスの割引購入
・教職員 3,100円 → 2,100円 ・学生 2,100円 → 1,100円
- ④ レストラン・カフェ・ミュージアムショップの割引 等



提供：九州国立博物館



※特典の詳細は、九州国立博物館ウェブサイトで確認してください。 https://www.kyuhaku.jp/visit/visit_info06.html

表紙モデルの福教大生

今回の表紙は、座談会で教職への思いや現役時代の経験を熱く語っていただいた福教大OB・OGの先生方と現役の学生3名にご登場いただきました。学生の皆さんは、講義では聞くことのできない先生方の貴重なお話から、改めて教職に魅力を感じ、将来教員になりたい気持ちがより一層高まったのではないのでしょうか。

座談会を終えての感想

○岩永さん

3人の先生方の話の中で「教師の何気ない一言は子どもたちの人生を変える影響力がある」という事を学びました。この時、私は改めて教師という仕事は子どもの成長に関わる事のできる素晴らしい職業であると実感する事ができ、将来、子どもたちの人生に良い影響を与えることのできる教師になりたいと心から感じました。

○木庭さん

私は「教師が何気なく発したことを生徒は鮮明に覚えていた。」という話が特に印象に残っています。生徒は担任を決めることができないし、その逆もまた然りです。また、子供にとっての担任は一人しかいません。いつか受け持つ児童たちに寄り添いその子たちにとって最高の先生になれるように、児童たちに自分が担任で良かったと思われるようにこれからも自分の人間性を磨いて行きたいと思います。

○松尾さん

私は講義や実習を通して「本当に先生としてやっていけるのか」と不安に思うこともありましたが、先生方のお話を通して子どもの成長に携わり、人生に大きな影響を与えることができるというやりがいを改めて実感しました。私も子どもと共に成長し、子どもに寄り添うことができる先生を目指して頑張ります。



福岡教育大学基金のご案内

福岡教育大学では、教育研究の更なる発展や充実を図ることを目的として、「福岡教育大学基金」を設けております。つきましては、広く教育界、産業界、地域の皆様方に、本基金への格別のご理解とご支援を末永く賜りたく、お願いを申し上げます。

公式ホームページ

福岡教育大学基金

検索

https://www.fukuoka-edu.ac.jp/about/efforts/foundation/fukkyou_foundation

インターネット(クレジットカード払い)による寄付金の受付を開始いたしました。

「福岡教育大学基金」についてのお問い合わせは、福岡教育大学財務企画課までご連絡をお願いします。

お問い合わせ先

福岡教育大学財務企画課 TEL:0940-35-1210 FAX:0940-35-1701 E-mail:kaihosa@fukuoka-edu.ac.jp

Campus Letter

キャンパスからの便り

後援会

令和2年度後援会総会中止のお知らせ

令和2年4月3日に開催を予定しておりました後援会総会を、新型コロナウイルス感染症の感染とその拡大防止のため中止することといたしました。なお、総会の議事内容の決定につきましては、会長に一任させていただきますことをご了承下さい。また、決定事項は「後援会だより第81号」に掲載して、8月中旬にお送りいたします。

※「後援会だより」がお手元に届いていない方は、後援会事務局までご連絡ください。

福岡教育大学後援会 事務局
TEL・FAX:0940-33-8070
E-Mail:kouenkai@eos.ocn.ne.jp



サッカー部 キッズフェスティバルの企画、運営

私たち福岡教育大学サッカー部は、宗像市内の小学生にサッカーの楽しさを知ってもらうため、キッズフェスティバルを企画、運営しています。

毎年メニューの工夫、改善に取り組んでいます。参加した小学生から「おもしろかった」と言ってもらえた時はとても嬉しいです。応援してくださる地域の方々にサッカーを通して、少しでも恩返しができると思います。

また毎週水曜日の朝、校内の清掃を行っています。日々の練習で使用させて頂いている総合グラウンドをはじめ、その他の場所の清掃活動を続けることにより、環境美化に努めています。

応援してくださる多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、さらに努力を続けていきます。



同窓会城山会

大学支援委員会報告

同窓会城山会は会員相互の親睦を図るとともに教育界の発展に寄与する事業の一環として大学・学生の皆さんへの支援にも力を注いできました。未来奨学金、学生ボランティア支援、学生サークルへの補助、教育実習ノート等の寄付などです。

その内容について協議する「大学支援委員会」を、本年度は12月7日、櫻井学長をはじめ大学経営に携わるの方々をお招きして福岡市内で開催しました。協議の中では、学生の92%が教員採用試験を受験したこと、そのための特別講座を85.9%が受講したことなど、大学改革によって教員養成大学としての性格が確立されてきていることに感謝し、今後も支援策を講じるという方針を定めました。



福岡教育大学同窓会 城山会事務局
TEL・FAX:0940-33-2211
E-Mail:jouyamakai@able.ocn.ne.jp

健康科学センター

健康科学センターでは、医師、看護師、カウンセラーによる心身両面での相談を受け付けています。

また「お花を育てる会」など、いろいろな企画をしていますので、ぜひお気軽にお越しください。



健康科学センターHP
<http://ww1.fukuoka-edu.ac.jp/~hokenctr/index.html>



どんなベストセラーよりも、
生徒の日記を読むのが
たのしい。

あすの教育に、夢を。

 国立大学法人
福岡教育大学
University of Teacher Education Fukuoka

(2014年度卒業生)



きょう蒔いた種は、
いつ花を咲かすだろう。

あすの教育に、夢を。

 国立大学法人
福岡教育大学
University of Teacher Education Fukuoka

(2016年度卒業生)

Joyama 通信 vol.47

福岡教育大学広報誌第47号 2020年3月26日
編集発行: 国立大学法人 福岡教育大学 経営政策課

〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1
TEL.0940-35-1205 FAX.0940-35-1259
e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp
ホームページ: <https://www.fukuoka-edu.ac.jp/>



福岡教育大学
イメージキャラクター
フッキー



携帯電話サイト



Twitter



YouTube



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。